

ダイヤモンド就活ナビ2022 就職モニターレポート2月調査

【調査概要】

- ◆調査対象 2022年3月卒業予定の大学院生・大学生
- ◆有効回答 631名
- ◆調査期間 2021年2月8日（月）～2021年2月17日（水）
- ◆調査方法 WEB入力フォームより回答

【回答学生の内訳】

文系	理系
499名 (79.1%)	132名 (20.9%)

【回答の多かった学生】

中央大学、日本大学、明治学院大学、
國學院大學、青山学院大学、立教大学、
早稲田大学、東京大学、同志社大学、
関西学院大学、慶應義塾大学、明治大学、
北星学園大学、北海学園大学、東洋大学

【大学エリア別回答学生数】

北海道	86	13.6%
東北エリア	8	1.3%
関東エリア	333	52.7%
甲信越エリア	18	2.9%
東海・北陸エリア	36	5.7%
関西エリア	97	15.4%
中・四国圏エリア	48	7.6%
九州・沖縄エリア	5	0.8%
合計	631	100%

◆TOPICS◆

※インターンシップ類：インターンシップ、1日仕事体験、キャリア支援プログラム等を含めます。

<就職活動進捗状況>

企業の採用選考に進んでいる学生は3割以上、現段階はエントリーシート提出が最多に。
希望の面接選考方法は文系男子を除き「オンライン」が「対面」を上回る。特に理系で顕著。

<志望業界・企業>

志望業界決まっている学生8割以上。志望業界はメーカーが約5割で最多。
「やりがい、適性が合えば企業規模にこだわらない」学生が41.7%。

<インターンシップ類参加状況>

実施形態は「オンライン」（69.6%）が最多、半数以上の学生が「対面」形式を希望。
参加社数は約半数が「5社以上」。参加日数は「半日」と「1日」が約7割で短期が主流に。

<インターンシップ類選考>

約7割の学生が「インターンシップ類参加のための選考」経験。時期は「冬」が7割以上で最多。
選考内容は「エントリーシート」が90.5%以上で最多。「適性テスト」は9.6ポイント増加。

<インターンシップ類に参加して>

インターンシップ類に参加した企業の「志望度が上がった」約8割。
「採用募集に応募しようと思う」9割以上。

【本調査に関するお問い合わせ】



株式会社
ダイヤモンド・ヒューマンリソース

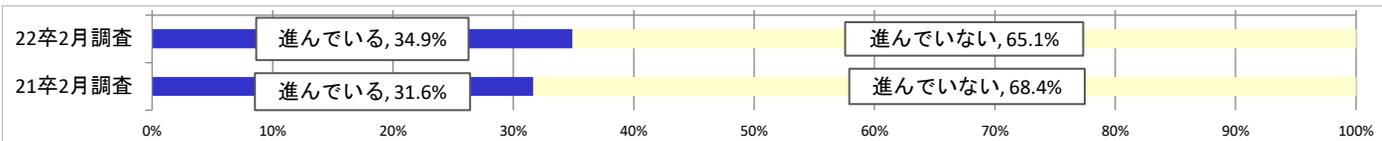
経営企画室

TEL : 03-5319-2450

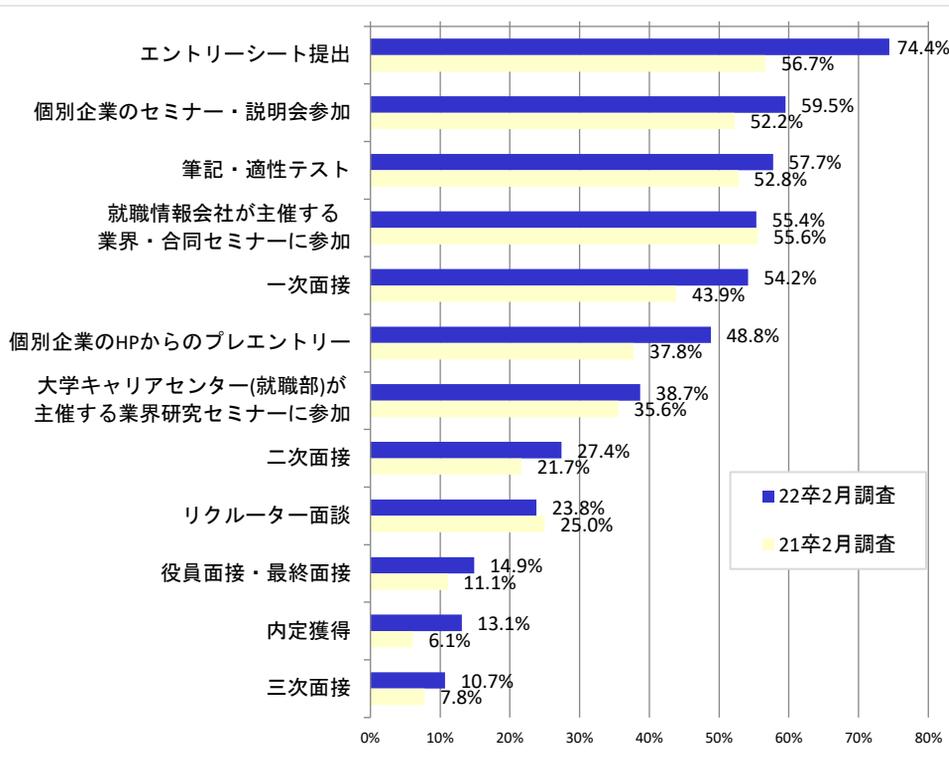
E-mail : marketing@diamondhr.co.jp

就職活動進捗状況

◆企業の採用選考に進んでいますか？

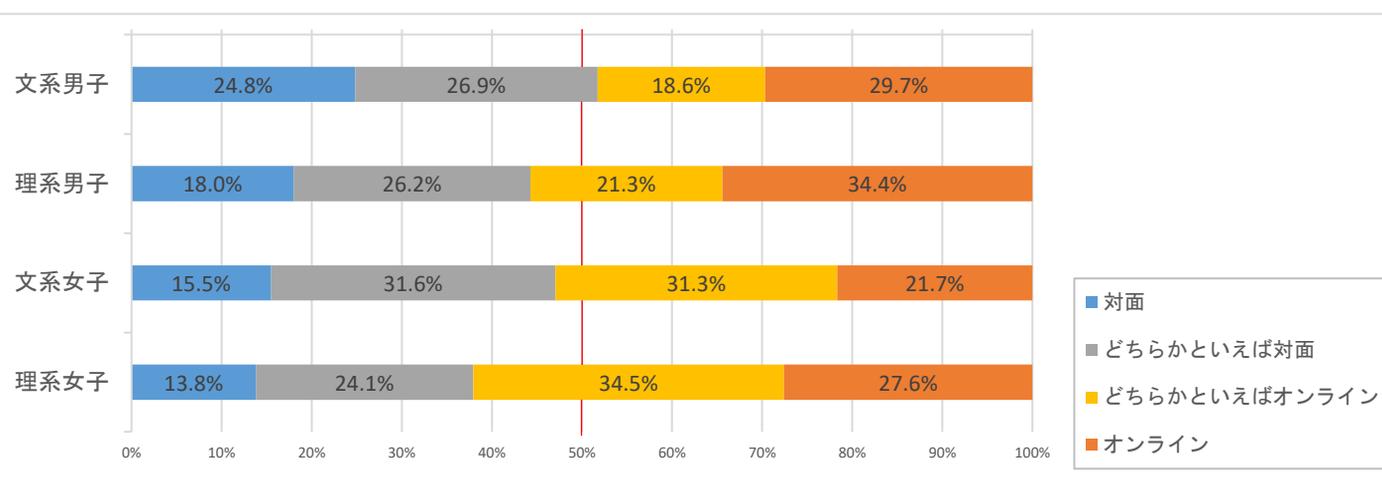


◆現在の採用選考の進捗状況について、当てはまるものを全て選択してください。



平均回・社数	22卒2月	21卒2月
大学キャリアセンター(就職部)主催業界研究セミナー	3.8	3.5
就職情報会社主催業界・合同セミナー	5.3	4.3
個別企業HPプレエントリー	9.6	11.7
個別企業セミナー・説明会	7.1	4.3
エントリーシート提出	4.3	3.1
筆記・適性テスト	3.5	2.5
リクルーター面談	1.6	1.4
一次面接	2.1	2.2
二次面接	1.7	1.8
三次面接	1.2	1.3
役員面接・最終面接	1.1	1.2
内定獲得	1.2	1.1

◆面接選考について伺います。選考方法を選べる場合、対面とオンラインどちらを希望しますか？



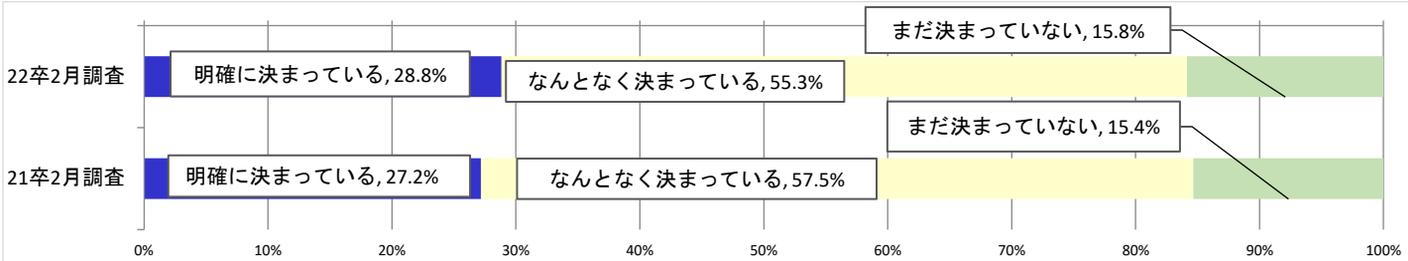
企業の採用選考に進んでいる学生は3割以上、現段階はエントリーシート提出が最多に。希望の面接選考方法は文系男子を除き「オンライン」が「対面」を上回る。特に理系で顕著に。

企業の採用選考に進んでいる学生は34.9%と昨年から微増した。中でも「エントリーシート提出」(74.4%)は昨年同時期の56.7%から17.7ポイントと大幅に増加した。「個別企業のHPからのプレエントリー」は11ポイント、「一次面接」も10.3ポイント増加しており、リクルーター面談が微減していることを除いて、一般的に前倒しで選考に進んでいる様子がうかがえる。

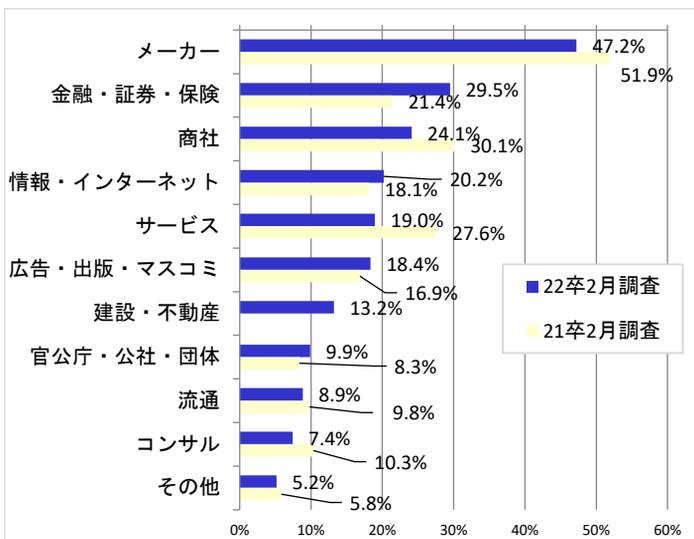
学生の希望する面接の方法については、文系男子が「対面」(24.8%)「どちらかという対面」(26.9%)と「対面」を希望する学生が51.7%と半数をやや上回った以外は「オンライン」面接を希望する学生が上回った。中でも理系女子は「オンライン」(27.6%)、「どちらかというオンライン」(34.5%)とオンライン希望が6割を超えた。

志望業界・企業

◆志望業界は決定していますか？

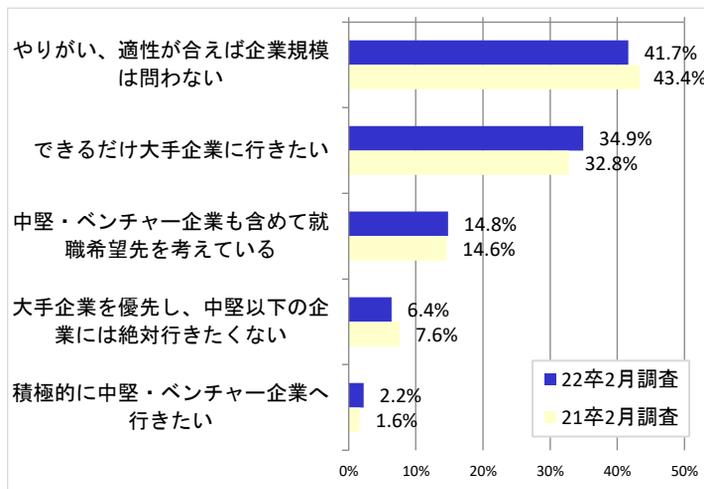


◆志望業界を教えてください。

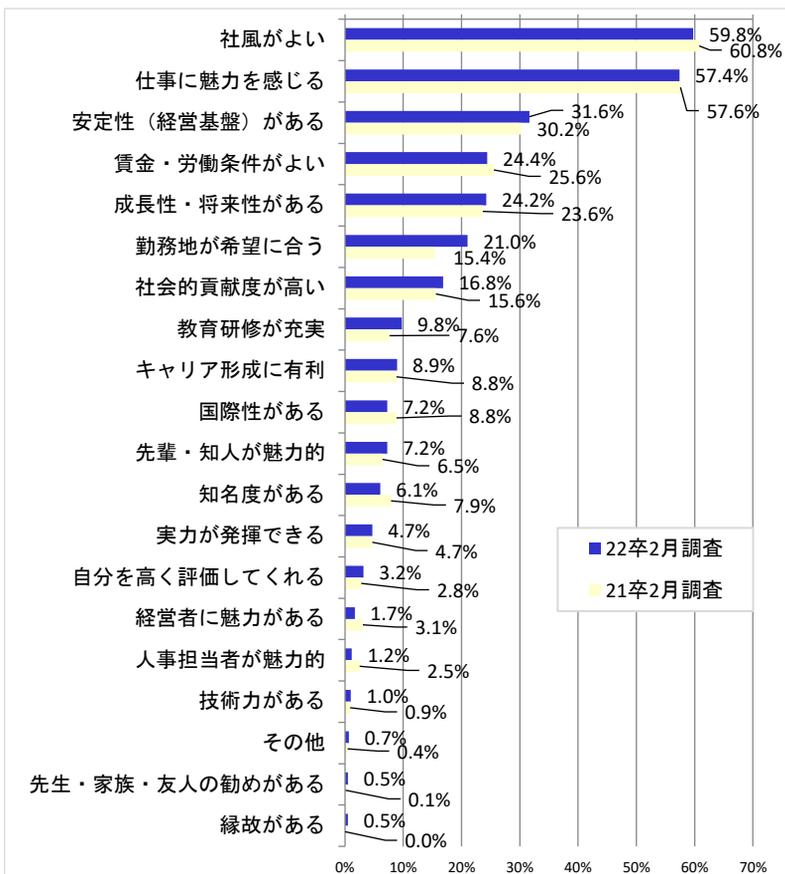


◆どんな企業に入社したいと思いますか？

現在の考えに近いものをお答えください。



◆企業を選ぶ基準は何ですか？現在の考えに近いものを3つお答えください。



志望業界が決まっている学生は8割以上。志望業界はメーカーが約5割で最多。「やりがい、適性が合えば企業規模にこだわらない」学生が41.7%で最多。

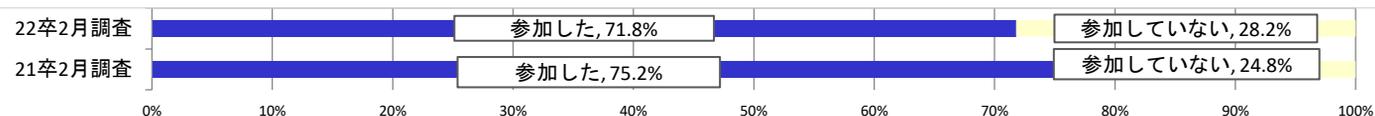
志望業界が「明確に決まっている」（28.8%）と「なんとなく決まっている」（55.3%）を合わせると84.1%。8割以上の学生が志望業界を決めている。志望先の業界は「メーカー」（47.2%）が最多で半数に迫る。次いで「金融・証券・保険」（29.5%）、「商社」（24.1%）「情報・インターネット」（20.2%）と続いた。

入社したい企業は「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」（41.7%）が最多で「できるだけ大手企業に行きたい」（34.9%）が続く。

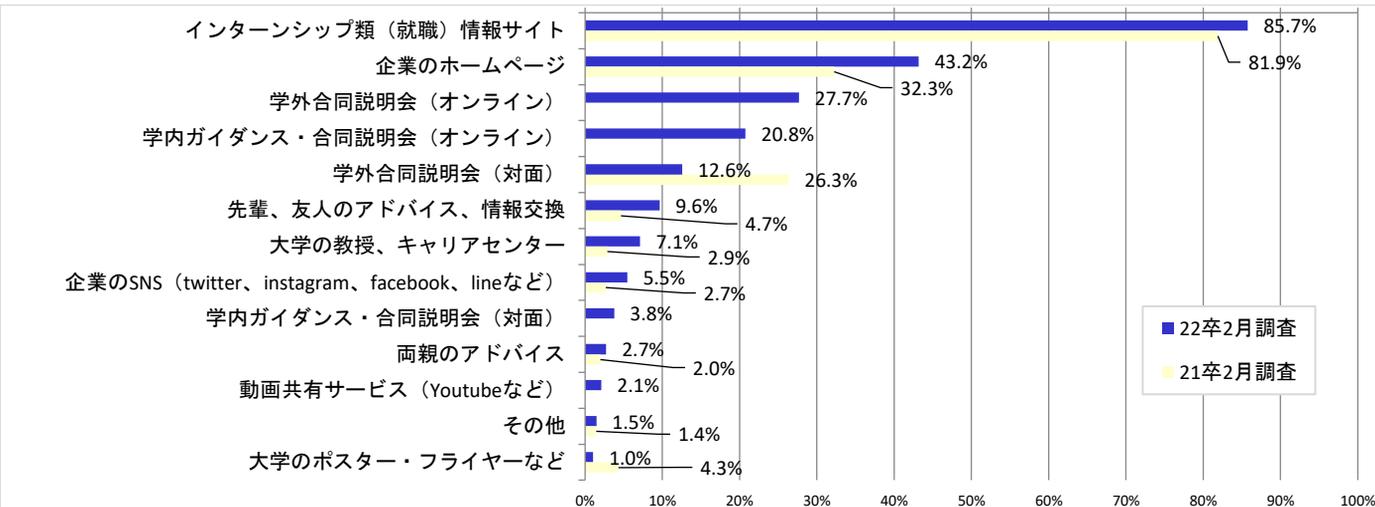
企業を選ぶ基準は「社風がよい」（59.8%）が最も多く、「仕事に魅力を感じる」（57.4%）、「安定性（経営基盤がある）」（31.6%）がトップ3となった。特に「安定性（経営基盤がある）」は21卒：30.2%から1.4ポイント増加し、コロナ禍の中でそれを重視する学生が増えたことがうかがえる。

インターンシップ類参加状況

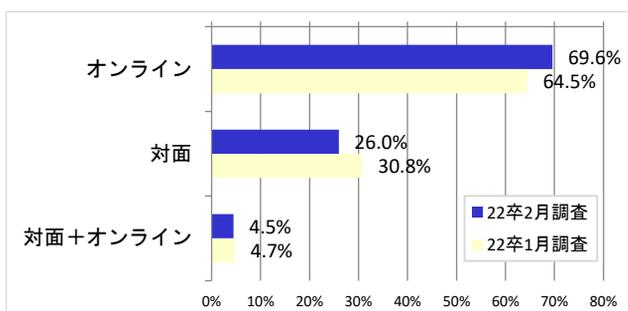
◆今年度の企業主催のインターンシップ類に参加しましたか？



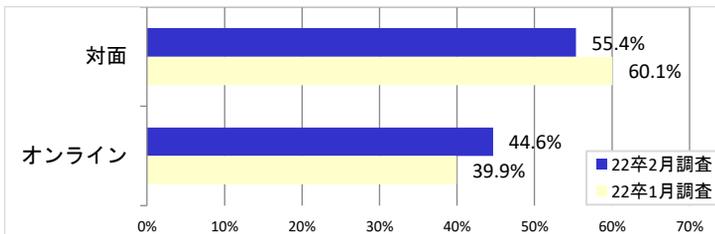
◆参加のきっかけ、情報収集手段をお答えください



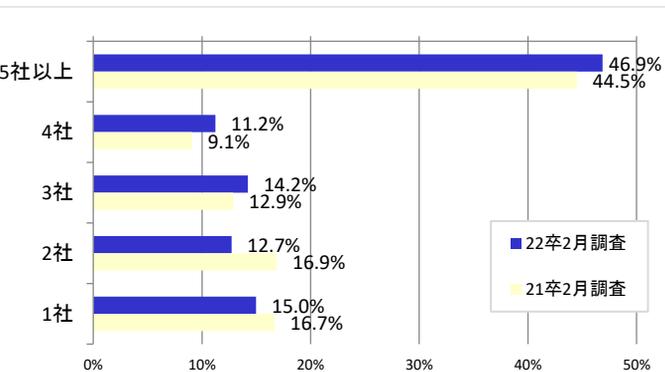
◆実施形態



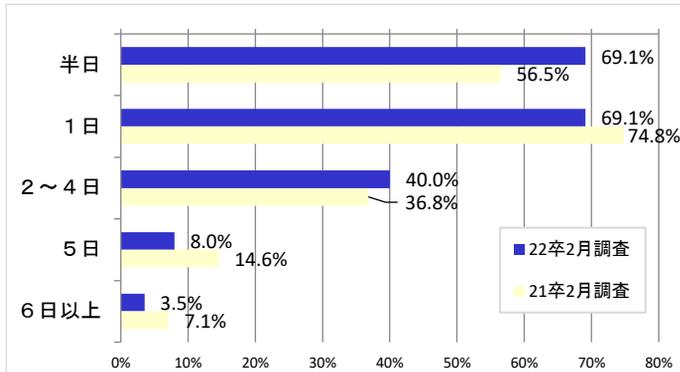
◆対面とオンラインではどちらのインターンシップ類に参加したいですか？



◆参加社数



◆何日間のプログラムに参加しましたか？



参加したインターンシップ類の実施形態は「オンライン」（69.6%）が最も多、**「対面」希望が学生過半数に。**約半数の学生が「5社以上」のプログラムに参加。参加日数は「半日」と「1日」が約7割で**短期が主流に。**

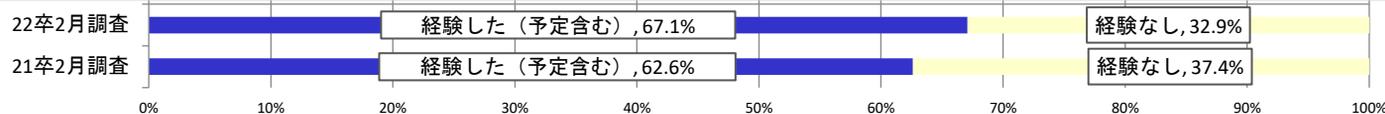
インターンシップ類に「参加した」学生は71.8%と、7割以上の学生が参加している。参加のきっかけは「インターンシップ類（就職）情報サイト」（85.7%）が約9割近くになり、大部分の学生が使用していると考えられる。

実施形態は「オンライン」（69.6%）が最多で、1月（54.5%）からも増加している。一方で、約5割以上の学生が「対面」（55.4%）形式のインターンシップ類への参加を希望している。

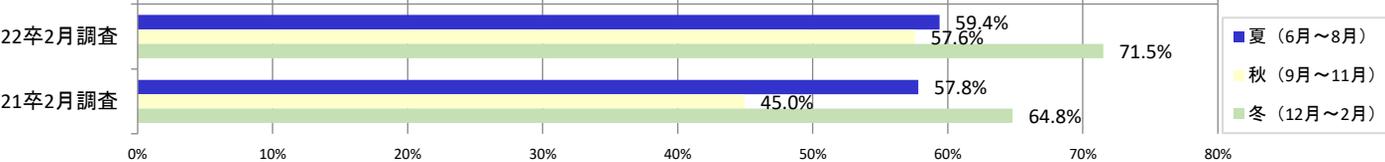
学生のインターンシップ類参加社数は「5社以上」（46.9%）が最も多く、参加したプログラムは「半日」と「1日」が共に69.1%で最多となった。特に「半日」は前年同時期調査から12.6ポイント（21卒：56.5%→22卒69.1%）増加した。インターンシップ類のオンライン化が進んだことで、短期間のプログラムに複数回参加する学生が増加しているようだ。

インターンシップ類選考

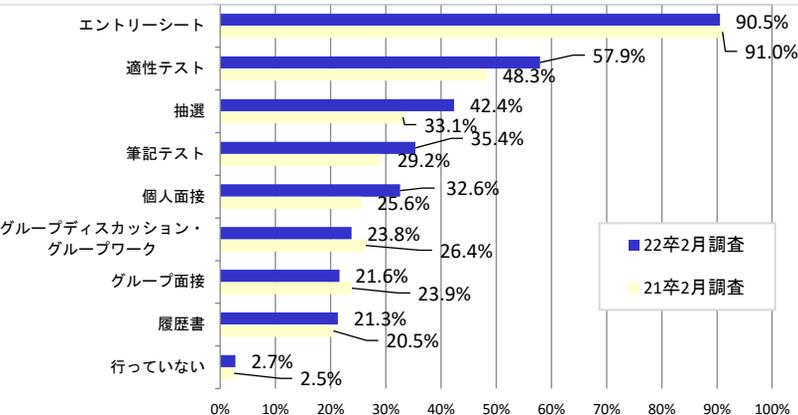
◆インターンシップ類参加のための選考は経験しましたか？



◆経験した時期を教えてください



◆それはどのような選考でしたか？

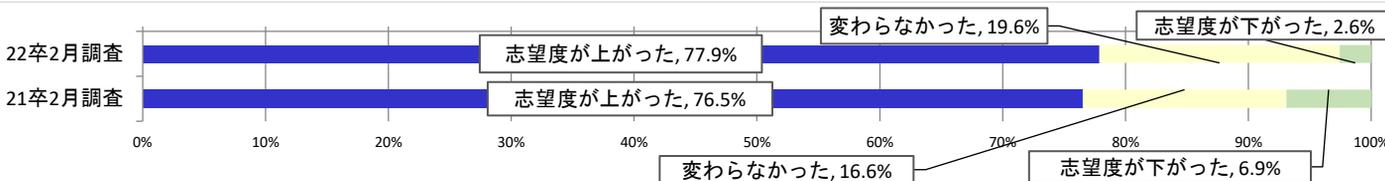


約7割の学生が「インターンシップ類参加のための選考」を経験。時期は「冬」が7割以上で最多。「適性テスト」は9.6ポイント増加。

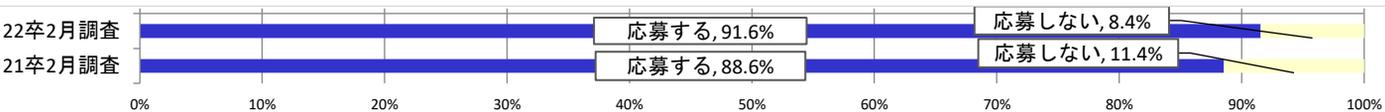
インターンシップ類参加のための選考を「経験した」学生は67.1%で約7割近い。21卒：62.6% → 22卒：67.1%で4.5ポイント増加した。
選考を経験した時期は「冬」（21卒：64.8% → 22卒：71.5% 昨対比+6.7ポイント）が最多である。
選考内容は「エントリーシート」（90.5%）が最多で、9割以上もの多くの学生が経験している。「適性テスト」は9.6ポイント、「抽選」は9.3ポイント増加した。

インターンシップ類に参加して

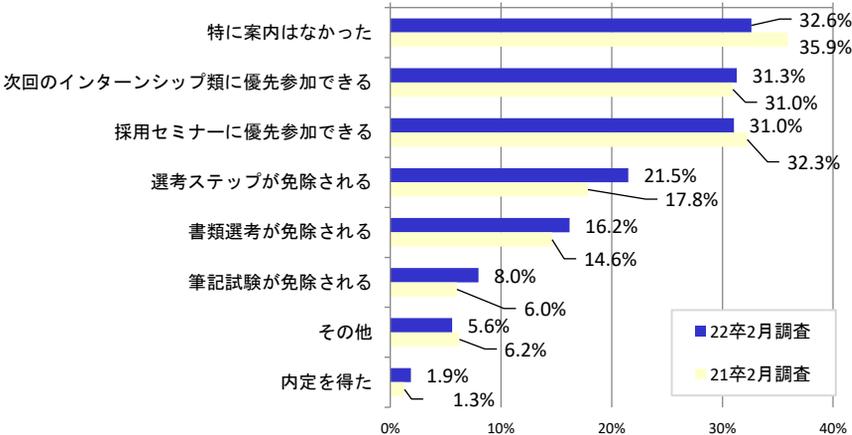
◆インターンシップ類に参加した企業の志望度に変化はありましたか？



◆インターンシップ類に参加した企業の採用募集に応募しようと思いますか？



◆参加後に採用選考の優遇案内がありましたか？あるとしたら具体的に、どのような内容でしたか？当てはまるものを全てお答えください。



インターンシップ類に参加した企業の「志望度が上がった」約8割、「採用募集に応募しようと思う」9割以上。

インターンシップ類に参加した企業の「志望度が上がった」学生は77.9%と、約8割近くの学生が回答している。「採用募集に応募しようと思う」学生は91.6%と、9割以上もの学生が「応募する」と回答している。
参加後の採用選考の優遇案内については「特に案内はなかった」（32.6%）が最多だが、次位以下には「次回のインターンシップに優先参加できる」（31.3%）、「採用セミナーに優先参加できる」（31.0%）が続き、次のステップに優先参加できる、という優遇が多いようだ。